

**製品名: 甲状腺グロブリンウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab18912**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	TG
別名	Thyroglobulin (Tg)
遺伝子 ID	7038.0
SwissProt ID	P01266
免疫原	アミノ酸配列範囲 2511-2560 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

**背景**

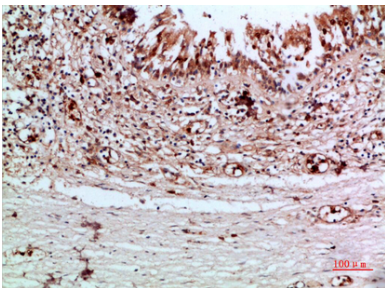
チログロブリン (Tg) は、主に甲状腺で産生される糖タンパク質ホモ二量体です。チロキシンおよびトリヨードチロニンの合成基質として、また不活性型の甲状腺ホルモンおよびヨウ素の貯蔵庫として機能します。チログロブリンは小胞体から分泌され、濾胞腔に

においてヨウ素化され、続いてチロキシン生合成が行われる部位へと送られます。この遺伝子の変異は、甲状腺腫として現れる甲状腺ホルモン生成不全を引き起こし、中等度から重度の先天性甲状腺機能低下症と関連しています。この遺伝子の多型は、バセドウ病や橋本甲状腺炎などの自己免疫性甲状腺疾患 (AITD) の感受性と関連しています。[RefSeq 提供、2009 年 11 月],疾患: TG の欠陥は、ある種の甲状腺腫の原因となる[MIM:188450]。甲状腺腫は甲状腺が腫大した病気で、甲状腺機能低下症と関連することがある。、疾患: TG の変異は、自己免疫性甲状腺疾患 3 型 (AITD3) の感受性と関連している[MIM:608175]。バセドウ病 (GD) や橋本甲状腺炎 (HT) などの AITD は、ヒトで最も一般的な自己免疫疾患の一つである。これらは、感受性遺伝子と感染などの非遺伝的要因との相互作用によって引き起こされる複雑な疾患です。、機能:ヨウ素化甲状腺ホルモンであるチロキシン (T4) とトリヨードチロニン (T3) の前駆体です。、オンライン情報:チログロブリン エントリ,PTM:硫酸化されています。、類似性:B 型カルボキシルエステラーゼ/リパーゼファミリーに属します。、類似性:11 個のチログロブリン タイプ 1 ドメインが含まれます。、サブユニット:ホモ二量体,組織特異性:甲状腺に特異的です。、

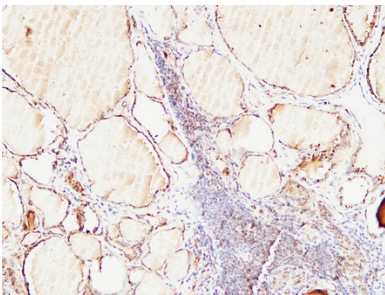
## 研究分野

自己免疫甲状腺疾患;

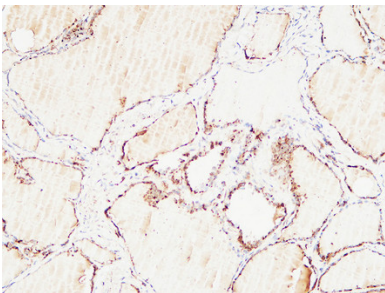
## 画像データ



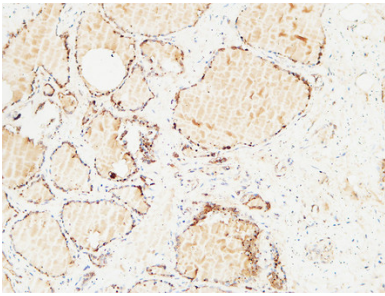
パラフィン包埋ヒト甲状腺の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された。



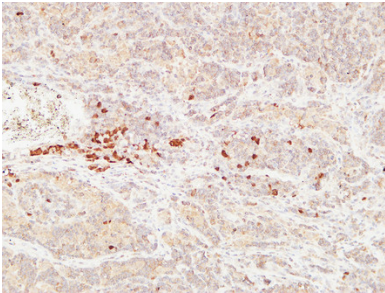
パラフィン包埋ヒト甲状腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



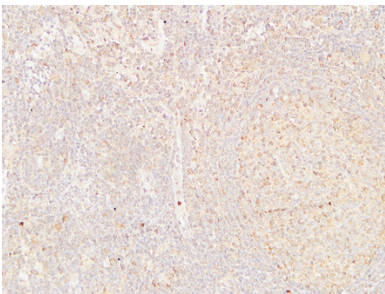
パラフィン包埋ヒト甲状腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



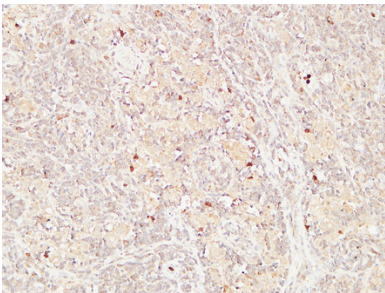
パラフィン包埋ヒト甲状腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒトリンパ腺癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 (4°、一晚) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30 分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒトリンパ腺癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 (4°、一晚) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30 分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒトリンパ腺癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 (4°、一晚) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30 分) に希釈した。